



1 弟子の西山さん(左)、寺尾さんと 2 力作の布草履たち 3 布草履の作り方を教わる福寿会会員の上田辰義さん(中央)、一緒に教える指導員の森田祀子さん(右) 4 講習会で布草履が完成し満足げな坂本三夫さん(右)と見守る吉村義治さん 5 笑顔が絶えないすてきな夫婦

布草履で喜びを

手際よく布を編み込むのは、本郷猛さん。草履工房「匠」を営む布草履職人だ。本郷さんの作る布草履は素足になじみ、履き心地が良く、長持ちすると評判がいい。阿蘇市や熊本市など県内4カ所で販売し、中には直接工房に作り方を習いに来る人も。本郷さんが制作を始めたきっかけは、25年前に妻のいつ子さん(74)が布草履作りにチャレンジしたこと。なかなかできずに苦戦していたいつさんの横でやってみたところ、うまくできた。しばらくは、作った布草履を無料で配布していたが、周りからの意見や自らの試行錯誤で鼻緒や前坪に改良を重ね、販売するまでに至った。

元自衛官の本郷さん。「仕事はキツチリしないと気が済まない性分」と言うだけあり、その妥協のない姿勢は作品にも現れている。材料の布は新品を使い、制作の前には必ずアイロンをかける徹底ぶりだ。本郷さんのもう一つのこだわり

字輝人

vol.75

決して妥協することのない
熟練の技が光る



本郷 猛 Hongou Takeshi

1944年小川町生まれ。草履工房「匠」の代表。1997年に布草履を作り始め、自宅にある工房で布草履体験や販売を行う。自身が所属する老人会(川尻福寿会)などでも講習会を開き、布草履の良さ、作ることの楽しさを伝えている。

☎43-4572

本郷さんの布草履制作の動画はこちら



の魅力を語る。

喜ぶ人がいる限り

「頼まれたら、できる限りはなんでもやる」。そんな人柄もあってか、川尻福寿会の会長、小川老人会の体育会部長などたくさんさんの役割を担い、スケジュール表は毎月びっしり。元々催し物が少なかった老人会でも、毎月必ず1回はイベントを開き、会員を楽しませている。会員からは「元気が良くて、毎回の企画が楽しいから、本郷さんが会長で良かった。」と喜びの声も。

「自衛官を退職するまで趣味はなかったんですが、布草履のおかげで生きがいができた。人が喜ぶことは続けたいから、喜んでもらえる限り一生続けていきます。自分が死んだときには棺おけに布草履と材料の布を入れてほしいですね。」そう言っているいつさんと笑みを交わす。

一つとして同じものはない布草履。喜んでくれる人たちのため、職人は今日も編み続ける。

職人としての歩み

10年前、草履の材料を買いに行ったときに、後が一番弟子となる西山恵子さん(71)と出会う。西山さんからの強い要望で布草履を教え始め、同年に工房を開業。すると、周りからの依頼で、観光物産協会主催バスツアーの体験会や、老人会での講習と引く手あまたに。今では、500人以上に教え、弟子を4人も抱える師匠となった。

弟子の一人、寺尾和代さん(66)は「分からない部分は何回も根気強く教えてくれるから、気兼ねなく工房に習いに行きたいと思えるんです」と本郷さん